

第1回 全国原子力発電所立地議会サミット

報 告 書

日時：平成9年7月8日(火)～10日(木)

会場：新潟県柏崎市産業文化会館 ほか

全国原子力発電所立地市町村議会議長会



《 プ ロ グ ラ ム 》

午前

午後

第1日目 (7/8)

第2日目 (7/9)

第3日目(7/10)

(9:00～9:30)
受 付 (産文文化ホール)

(9:30～12:00)
基調講演
「わが国の原子力開発利用の当面する課題」
東京大学工学部教授
近藤 駿介 先生

「抜本的転換を迫られる原子力開発政策と
原子力技術の将来展望」
元中央大学教授
中島篤之助 先生

質疑応答

(8:30～12:00)
施設見学
柏崎刈羽原子力発電所
県立柏崎アクアパーク

(13:30～14:30)
受 付 (産文文化ホール)

(14:30～16:00)
開会式
開会のあいさつ
実行委員長あいさつ
来賓祝辞
通商産業大臣 佐藤 信二 殿
科学技術庁長官 近岡理一郎 殿
全国原子力発電所所在市町村議会議長会
会長 敦賀市長 河瀬 一治 殿
新潟県知事 平山 征夫 殿
柏崎市長 西川 正純 殿
刈羽村長 加藤 實 殿

(16:00～17:00)
記念講演
「最近の原子力を巡る情勢と取り組み」
原子力委員会委員長代理
伊原 義徳 殿

(18:30～20:30)
歓迎レセプション
会場：メトロポリタン松島

(12:00～12:50)
昼 食 (産文3階大ホール)

(13:00～15:30)
分科会
第1分科会
(産文第2会議室)
第2分科会
(ソフィアセンター)
第3分科会
(ガス水道局2階会議室)
第4分科会
(産文和室会議室)
第5分科会
(柏崎エネルギーホール会議室1・2)

(15:30～15:40)
移 動

(15:40～16:40)
全体会 (産文文化ホール)
分科会報告
宣 言

閉会式

ごあいさつ

全国原子力発電所立地市町村議会議長会

会長 柏崎市議会議長 高橋 長究

本日ここに、全国原子力発電所立地議会サミットが開催されるにあたり、主催者を代表して、一言御挨拶を申し上げます。

今年4月、原子力発電所の立地に取り組みをされている議会の皆様から御理解をいただきまして、「全国原子力発電所立地市町村議会議長会」を設立させていただきました。

その議長会の初めての事業でありますこのサミットが、300名を超える大勢の皆様から御参加をいただき、柏崎で開催できますことに心から感謝と御礼を申し上げますとともに、歓迎の意を表する次第であります。

また、御来賓として、通産大臣、科学技術庁長官をはじめ、全原協会長様、地元新潟県知事様、柏崎市長様、周辺町村長様から、公務御多忙の中を御臨席賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、私たち自治体の議会議員は、住民の持つ様々な意見を体しながら、国のエネルギー政策に協力をするという観点から、原子力発電所との共生の途を掲げて、その推進を図ってまいりました。

確かに、原子力発電所の立地により、遅れていたインフラ整備が行われ、地域環境が徐々に改善されてきたことは、紛れもない事実であります。

しかし、原子力を取り巻く情勢は、私が申し上げるまでもなく、チェルノブイリの事故以降、一昨年の阪神・淡路大震災をはじめ、高速増殖原型炉「もんじゅ」の事故、そして、去る3月11日の東海村の核燃料再処理工場の火災・爆発事故や、ふげん発電所の事故と続き、住民の原子力に対する不安と不信感がますます増大をしてきており、極めて厳しい環境下にあるわけであります。

加えて、現在、使用済み燃料問題、中でも、当面の課題として、プルサーマル問題が俎上に上っており、議会も行政も、それぞれの立場で真剣になって現在、勉強を行っているところであります。

我が国のエネルギー需要は、豊かで快適な暮らしや、産業・経済の発展を支える上で、今後も確実に増えていくことが予測されています。とりわけ、電力の需要は、より一層の快適性や利便性を求める国民の生活志向により急増している現状にあります。そのような中において、原子力発電は、環境負荷の少ないクリーンなエネルギーとして、また、供給の安定性という観点から、今後のわが国の電力供給の中心的役割が期待されているところであります。

国においては、現在の混沌とした原子力情勢に対処するために、去る2月4日、極めて異例ともいえる閣議了解を行いました。最も肝要なことは、透明を基本とした原子力政策の展開を図って、国民の信頼と理解を得ることです。

原子力発電所立地市町村議会議長会は、議員がそれぞれ抱えている問題や課題について、連携を取り合いながら、調査や研究をし、情報交換をしながら住民の安全の確保と福祉の充実、地域振興に寄与していこうという趣旨のもとに設立がされたものであります。

住民を代表する議会は、当然のことながら、住民の安全の確保と地域の振興を念頭に据えながら議論を行ってきているところでありますが、今回のサミットが、原子力の今後の在り方について、今一度原点に立ち戻って、お互いに意見を交わしながら、より良い地域づくりに繋げていける場となりますことを御期待申し上げます。

最後になりましたが、本日御参会の皆様方が、今回のサミットを通じて、より一層の連携が深まり、実りある大会となりますことを御祈念申し上げ、主催者としてのごあいさつといたします。

大変ありがとうございました。

ご あ い さ つ

実行委員長

前柏崎市議会議員 丸山 敏彦

御紹介をいただきました丸山 敏彦でございます。

本大会の実行委員長を務めさせていただいております。どうかよろしくお願いを申し上げたいと思います。

今ここに立たせていただいて、まず思うことは旧知の皆さんが大勢この柏崎にお出でをいただきまして、感激とうれしさでいっぱいあります。

私どもがこの計画を考えついた昨年の2月か3月、まだ寒い時期でございました。全国の皆さんにこの計画を発信するにあたり、どうしたらいいものか、大変悩んだところであります。そして、よくいわれましたことは全原協があるのに、議会にそんな組織が本当にいるのかという議論があちこちに聞かれました。しかし、議員であられる皆さんが一番よくおわかりのように、私どもは、まさにその地域の住民の皆さんから選んでいただいて、住民の日常の暮らし、そして生活の向上、地域の社会の発展、これらを日夜願いながら議員としての活動をいたしておるわけでありまして。

いうまでもなく、この原子力発電は国のエネルギー政策の根幹であります。これがなければ生活の安定も向上も、そして産業の振興発展もないのであります。我々はこの事実を決して忘れてはなりません。しかし、そうはいいながら、この原発のために大変激しい議論が間断なく続いていることもまた事実でございます。われわれは今まで、相手の意見にあまり耳を傾けなかった。しかし、今私どもは賛成、反対を越えて相手の意見にも耳を傾けながら、よりよい地域社会の発展を願っているところでございます。

このような観点から、私どもが一堂に会して、原子力問題の討論や、その地域、地域の情報を交換しながら、地域のためのよりよい原子力発電との共生を模索をする。これがまず、このサミットの大きな目指すところでございます。私どもはこのような会は、まさに初めてでございます。大勢の皆さんからこの柏崎にお出でいただいて、御満足のいくおもてなしも、あるいはできないかもしれません。しかし、これから始まる3日間、遠いところからお出でいただいた皆さんには御満足いけるような原発サミットにしたいとスタッフ一同、本当に一生懸命がんばっているところであります。

この3日間、どうかひとつ、実りの多い原発サミットになりますように、そしてお出でをいただいた皆様方の地域が、ますますこれからも発展されますように心から御祈念を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

大変ありがとうございました。

